

知事定例記者会見（未定稿）

日 時 令和7年3月25日（火） 14：00～14：20
場 所 別館2階 記者会見室

（知事）

はい。それで私から今日は3件発表させていただきます。

1点目は「パラ水泳ワールドシリーズ富士-静岡 2025」の開催についてでございます。

まず初めに大会のPR動画を上映いたしますのでご覧ください。

はい。来月の4月10日の木曜日から12日土曜日の3日間、富士市にあります静岡県富士水泳場を舞台に日本初開催となる「パラ水泳ワールドシリーズ富士-静岡 2025」が開催をされます。

パラ水泳ワールドシリーズは世界のパラ水泳連盟が主催する世界大会で、2017年から始まり、毎年世界各地を転戦する形で開催されております。

昨年は世界8カ国で開催され、今年は日本をはじめ、イギリスやフランス、オーストラリアなど世界8カ国で開催されます。

日本開催ではパリパラリンピックの金メダリストであります浜松市出身の鈴木孝幸選手をはじめ世界20カ国から約200人の選手が参加する予定と伺っております世界レベルのパラスイマーのレースを間近で観戦できるまたとない機会となりますので、県民の皆様にはぜひ会場にお出掛けをいただきたいと思っております
1点目は以上でございます。

2点目は2027年国際園芸博覧会への出展についてでございます。

2027年3月19日から9月26日まで、横浜市で開催される2027年国際園芸博覧会に本県が出展することが内定をいたしました。

2027年国際園芸博覧会は、1990年に大阪で開催された国際花と緑の博覧会、いわゆる大阪花の万博以来、我が国で2回目の開催となる最上位のA1クラスの国際園芸博覧会であり、70の国や国際機関が出展を予定をしております。本県は会期中に9日間、屋内展示場での出展を行い、多彩で魅力的な本県産花きを紹介する予定でございます。

今後、公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会や花き生産団体等と連携し、出展の準備を進めてまいります。

2点目は以上でございます。

3点目は、大井川鐵道の復旧についてでございます。大井川鐵道は令和4年9月の台風15号により、全線が被災し、現在もなお一部区間が不通となっております。県は大井川鐵道からの要望を受け、令和5年3月に大井川鐵道本線沿線に

おける公共交通のあり方検討会を設置をし、沿線の市町などと、などの関係者と今後のあり方等の検討を開始をいたしました。

昨年3月の第3回検討会では、早期の運行再開を目指すことで、関係者で合意をし、そのための支援の枠組みについて調整を進めてまいりました。

このたび支援の枠組みについて、概ね合意の目処が立ったことが、立ったことから、今週の28日に第4回検討会を開催し、詳細について公表をいたします。

私からは以上でございます。

(幹事社)

ただいまの知事の発表について質問のある社をお願いします。

それでははい、幹事社質問に移らせていただきます。

幹事社から、令和6年度の振り返りと新年度に向けてお伺いします。

昨年5月の知事就任以来リニア問題をはじめ様々な課題に取り組まれてきました。令和6年度の行政運営を振り返りご自身でどのように評価されますでしょうか。

その理由と、また新たに見えてきた静岡県の課題があれば教えてください。また新年度、失礼しました、所信表明では令和7年度チャレンジ元年、財政改革元年と位置づけると述べられていましたが具体的にどのような主体、どのような年にしたいとお考えでしょうか。

(知事)

はい就任直後からスピード感を持ってですね、県政運営に当たっていくということで様々な取り組みを自分なりにスピード感を持って進めてきたというふうに思います。リニアも28項目あった課題8項目が終了し、今残り20項目について、取り組みを進めているところでございますし、スタートアップでありますとか、あるいは企業誘致でありますとかですね、ライドシェアの普及等の新たな取り組みも含めまして、様々な取り組み、取り組んでまいりました。また昨年末にインドのグジャラート州とのですね、友好協定の締結等を行いまして、新たなインドとの道も拓いたというところでございます。

新たに見えてきた課題といえばですね、やっぱり今の県の財政状況をですね、中長期的にやっぱり健全化していく必要があるなということで、それは今回の財政改革元年にもですね、そのことを盛り込んだところでございます。

来年度つきましてですね、いよいよ本格的にですね、令和7年度予算も確定をし、それに基づきまして、県政にですね取り組んでいく年でございますので、もう一度今、チャレンジ元年、財政改革元年のですね、という位置づけのもとにですね、実効性、実効性のあるですね、取り組みをしてですね、成果を上げていき

たいと、そして県民幸福度日本一の静岡県に向けてですね、チャレンジを進めていきたいというふうに思っております。

(幹事社)

ありがとうございます。

では2点目副知事人事についてお伺いします。

先日2月定例会が閉会し副知事人事が正式に承認されました。

改めてお2人に期待すること、そしてそれぞれの具体的な担務についてお聞かせ、決まっていればお聞かせください。

(知事)

はい。

前回もお話申し上げました通り、塚本氏につきましてはですね、県政でのですね経験が非常に長い上にですね、中部地域局長でありますとか、あるいは沼津の副市長等も務められているということでございますので、県政の諸課題でありますとか、地域性を活かしてですね政策の立案等に活躍していただきたいなど、またあとは市町とのですね、調整等ですね、そうしたことにですね、力を尽くしていただきたいというふうに思いますし、平木さんに関しましては、総務省はじめですね、県での副知事の経験でありますとか、様々なですね広い行政経験をお持ちですし、民間での経験もあることからですね、経営感覚を持ちながら、政策の立案でありますとか行財政運営に取り組んでいただきたいというふうに思います。

具体的な詳細につきましては今、皆様のお手元にですね、メモお渡しをしましたがけれども、塚本氏は今言ったような方針のもとにですね、県の組織管理や地域振興等の分野を担当していただくとともにですね、こども施策であるとか、伊豆半島をはじめとした防災対策等にですね、取り組んでいただきたいと思います。平木氏にはですね行財政運営でありますとか、またリニア中央新幹線の対応、あるいはスタートアップなどの産業施策ですね、こうしたものにですね、力を注いでいただければというふうに考えております。

以上でございます。

(幹事社)

ありがとうございます。

ただいまの幹事社質問に関する知事の回答について質問のある社はお願いします。

(記者)

中日新聞です。副知事の担務の確認ですが、平木さんはリニアの本部の本部長と
いうことでよろしいですか。

県のリニア対策本部で。

(知事)

そういう位置づけになるかな。はい。

ちょっと間違っただけではないのでちょっと総務部長(正しくはくらし・環境部
理事)からお話します。

(担当)

くらし環境部理事の鈴木でございます。

リニアの本部長につきましては、平木副知事が担うということになっておりま
す。

(記者)

あと野球場の話の協議会のトップは交通基盤部塚本さんということでしょうか。

(知事)

これは、交通基盤部ですから、塚本さんでよろしいですかね。

野球場の担当は塚本さんでよろしいですか、

(公室長)

よろしいかと思えます。

(知事)

はい。

(記者)

ありがとうございます。

(幹事社)

その他いらっしゃいますか。

それではその他の質問がある社をお願いします。

(記者)

読売新聞と申します。よろしく申し上げます。浜松市で小学生が亡くなった交通事故について伺います。

昨日浜松市で小学生4人が軽トラックにはねられて、小学生が死亡するなどの事故が発生しました。

これについての知事の受け止めと、あと県として今後の対応等があれば教えてください。よろしく申し上げます。

(知事)

本当に子供4人が巻き込まれると、痛ましい事故であり、死亡者も出る、出たということですね、心からのお悔やみを申し上げますとともに、怪我をされた方に対してですねお見舞いを申し上げたいというふうに思っております。

こうした事故を起こさないようにですね、既に教育委員会からもですね、注意喚起をですね、全県に指示を出しておりますし、やっぱり交通事故をですね、できるだけ減らしていくということで、これは県警を中心にですね、県内の市町と連携をしながらですね、一層の交通事故対策に取り組んでいきたいというふうに思います。

(幹事社)

その他いらっしゃいますか。

じゃあ中日さん。

(記者)

中日新聞です。今日の午後に予定されている外国人の受け入れの知事会のプロジェクトチームのことですけれども、知事、浜松市長時代から外国人との共生であったりとか、そういったことに力を入れてきたんだと思うんですけども、その県政課題となったときに、外国人の受け入れっていうところに対して、知事の問題意識はどんなところにあるのかということと、あとこのプロジェクトチームで何を訴えていきたいのかという、この2点をお伺いしたいんですけどもよろしいでしょうか。

(知事)

基本的にはですね、これまでは特定地域の問題として、特定地域の問題とされてきたわけですね。これ1990年の入管法の改正で、特に日系という資格で無条件で労働者の方を受け入れてきたということから、浜松もそうですけども、自動車産業を中心に物作りがさかんな地域に外国人の方がこられて、そういう地域ではもうずっともう30年以上ですね、この問題と向き合ってきたんですけども、

これは御存知のように、2018年に特定技能という制度ができて、いよいよ労働目的の外国人をですね、本格的に受け入れていく、そういう国になってまいりました。ですから、これから、特定地域だけではなくて、全国にですね、外国人の皆さんがですね、定住をされる、そういう時代が来たということでございますので、一つ県内もですね、まだまだそうした取り組みが進んでいる市町と、そうではない、これからやっぱりいろいろやっていかなきゃいけない市町がありますので、全県の問題としてですね、これは県がしっかりとリードしながらですね、各市町と一緒に進んでいくということでもあります。

それから、知事会のPTにつきましても、これも同様にですね、これからは全国的な課題となってまいりますので、しっかりとですね、知事会として国に対して提言をしていく必要があるだろうと。特にこれから、技能実習制度が育成就労へというですね、新しい制度に変わっていくということもありますし、まだまだ国としてやっていただきたいということもたくさんありますので、そうしたことを知事会として提言していくということが大事であるというふうに考えております。

(幹事社)

その他の質問、静岡新聞さんお願いします。

(記者)

静岡新聞です。今しがた、人事異動の内示で、教育部長に文科省の方が配置されるということの発表がありました。

この方に期待されること、並びに役割として、知事ではあつて教育長ではないんですけれども、教育長ではないので知事ではあるんですけれども期待する部分について教えてください。

(知事)

教育の部分は非常に重要でございますし、国の方でもですね、こども政策が大きく変わってきた中でですね、これからそういうこども政策と教育委員会とのですね、連携係というのも重要でございますし、国とのですね、国の方針のもとにいろんな政策を進めていくとき、国との連携というものも必要でございます。また、国で豊富な経験を積んだ方にですね、静岡県教育行政にですね、新しい風を吹き込んでいただきたいという思いもありますし、そうしたことでですね、今回文科省から新しい教育部長を迎えることになったということでございます。

(記者)

関連しましてもう1点、前知事の時代に国等のパイプがやせ細ったっていうような指摘がこれまでもあって、知事選の中で、知事が、鈴木康友知事が、国とのパイプも元に戻すというようなお話をされたかと思うんですけども、今後の方向性として、省庁人事っていうのはどういうふうに取り組んでいかれるっていうふうに。

(知事)

はい？

(記者)

省庁の人事。人事交流ってどういうふうに。

(知事)

これはもう必要なことであれば、国からも人を受け入れますし、あるいはまた、国へも送るということもやっていきたいと思えますし、何より私自身が、今まで培った人脈を生かしてですね、しっかり国とのパイプをですね、作り上げていきたいというふうに思っております。

(記者)

ありがとうございました。

(幹事社)

他に質問のある社、いらっしゃいますか。

(記者)

SBSテレビです。リニアに関してなんですが、2点ありまして、1点目が、すみません、先ほど平木さんが担当されるということになりましたが、リニア関連については、どういったことを期待されるかだとか、そういったところをまず教えていただいてもいいでしょうか。

(知事)

はい。平木さん、非常に事務能力もありますし、これまでの行政経験も豊富でございますので、ぜひリーダーシップを発揮していただいて、残りの20のですね、まずこの対話項目、課題をですね、速やかにを進めていただきたいというふうに思っております。

(記者)

ありがとうございます。もう一点なんですが、あの県の専門部会の方では水資源に関する項目については着手がもう進みまして、完了とした項目も出てきています。こういった中で、来年度に向けて、またこの専門部会どのように進めていきたいか教えていただけますか。

(知事)

そうですね、これはやっぱりJR東海さんと連携しながら、スピードを上げていかなきゃいけないわけですが、特に生物多様性の分野は、調査等も必要になってくるということで、そこは県もしっかりやってまいりますし、JR東海さんへもですね、速やかに取り組みを進めていただいて、早く専門部会の中で議論ができるような状況を作っていきたいというふうに思います。

(記者)

ありがとうございます。

(幹事社)

他に質問ある社いらっしゃいますか。

ではちょっと共同通信からもう1点、今のリニアに関連する質問なんですけれども、昨年3月29日に、JR東海がリニアの27年開業を断念されました。そこから約1年、先ほどの専門部会であつたりとか住民説明など取り組みが進んでいるかと思うんですけれども、これまでの対応の進捗スピードについて改めてどのように考えられるか。

また、岸田首相が37年の全線、全線開通堅持というお話されていたと思うんですけれども、今後のスケジュール感について改めてどのように見通されるか教えてください。

(知事)

これは私なりに、かなりスピードを上げて対話を進めてきたというふうに思います。もちろんリニアは一刻も早くですね、プロジェクトを進めたいと思いますが、静岡県特有の課題をですね、ないがしろにして進めるわけにはいきませんので、いつも申し上げておりますけれども、早くこの対話項目を終了させるということに全力を尽くしていきたいというふうに思います。

37年の開業につきましては、これは国とJRの問題でございますので、37年開業ということであれば、やはり名古屋-大阪間もですね、同時にですねプロジェクトを進めるとか、いろんなことをやらなければいけないと思いますので、そこ

はっきり国とJR東海さんの間で、期限も含めて、打ち合わせというかですね、方針決定してもらえばいいのではないかなというふうに思います。

(幹事社)

ありがとうございます。

この他質問ある社いらっしゃいますか。はい、お願いします。

(記者)

すいません時事通信です。石破首相の、商品券の配布の問題なんですけれども、報道各社の調査などでも支持率が大幅に下がっていたりですとか、静岡市議選にも影響が出たっていうような声もあるわけなんですけれども、商品券配布については、どういうふうに捉えていらっしゃるか、ちょっとお伺いしたいんですが。

(知事)

これはやっぱり、世間の常識からして、やっぱりありうるべきことではなかったかなと、やってはいけないことじゃなかったかなというふうに思いますし、石破さんだけじゃなくて、歴代総理が同様のですね、慣習として、行ってきたというような報道もありましたので、もしそうだとするならば、早くこうした悪しき慣習はですね、やめた方がいいのではないかなというふうに思います。

(幹事社)

そのほか、質問のある社いらっしゃいますか。

では、以上で記者会見を終了します。ありがとうございました。

(知事)

ありがとうございました。